

大阪狭山市民ボッチャ大会競技規則

1 原則

- ① この大会は主催者の定める本競技規則により実施する。
- ② 本競技規則に定める各項およびそれ以外は、審判長の判断を最終決定とする。
- ③ その他疑義が生じた場合は大会主催者が判断する。

2 コート

- ① コートの大きさは 12.5 m × 6.0 m とする。
- ② スローイングボックスは 2.5 m × 1.0 m とする。
- ③ スローイングボックスは競技者から見て左から順に 1 番から 6 番となり、赤ボールのチームが奇数ボックスに、青ボールのチームが偶数ボックスで競技を行う。

3 用具

- ① ボールは赤 6 個、青 6 個、ジャックボール 1 個で構成され、大会主催者が用意するボールまたは持参したボールを使用する。
- ② ボールは天然皮革製、人工皮革製、フェルト製に限る。
- ③ 選手は必要に応じて補助具（ランプなど）や介助者等を使用することができる。
- ④ その他、選手が競技を行う際に使用する用具は大会の使用に適しているかどうか、試合前に審判長によって確認され、適正であることを了解される必要がある。

4 出場対象者

- ① チーム員は市内在住、在勤、在学者である必要がある
- ② チーム員は最大 6 名まで登録できる
(1 試合あたりの投球者は 2 名または 3 名。試合ごとにメンバーの入替が可能)
- ③ 介助者等は 4-②に含まない。

5 競技方法

- ① コートごとに予選（リーグ戦）を行い、各コート勝利数の多い上位 2 チームで決勝（トーナメント）を行う。予選は 2 エンド制、決勝は 4 エンド制で行う。（エンドの時間は定めない）
- ② 予選及び決勝の最終エンド終了時点で同点の場合はファイナルショットで勝敗を決める。（投球する選手のボックスは変えられない）
- ③ 予選の勝利数が同数の場合は①得失点差②総得点③直接対決の勝敗の順に判定し、順位を決定する。
- ④ じんけんで勝利したチームが先行後攻を選択、先行が最初のジャックボールを投球する。
- ⑤ 先攻のチームが赤ボール、後攻のチームが青ボールを使用する。
- ⑥ エンド開始時のジャックボールがコート外に出た場合は次のエンドでジャックを投球する選手がジャックを投球する。最終エンドでジャックがファウルになった場合、第 1 エンドでジャックを投球した選手がジャックを投球する。ジャックの投球は、ジャックが有効エリアに停止するまでこの手順を繰り返す。
- ⑦ ジャックボールの投球者はチーム内で決定する。
- ⑧ 試合中にジャックボールがコート外に出た場合はクロスの中心に審判が置く。

- ⑨ 試合中はスローイングボックスを交代することはできない。
- ⑩ 試合中に投球者を交代することはできない。
- ⑪ 両チームがすべての投球を終了したのち、審判が口頭で得点を発表する。
異議がない場合は「エンドフィニッシュ」とする。
- ⑫ エンドフィニッシュ後、審判はボールの回収を両チームに指示する。この指示をもって試合終了とする。

6 違反行為

- ① 以下の行為については、違反行為として投球されたボールは除去される。
(但し、1回目は注意のみとする場合がある。)
 - 1 ラインを超えて投球したとき。
 - 2 審判の指示がある前に投球する。または指示がない選手が投球したとき。
 - 3 ランプを使用する選手の介助者が、試合中にコートを見たり、競技に介入する所作や言動をしたと審判が認めたとき。
- ② いずれの場合もペナルティボールは科さない。

7 表彰式

- ① 決勝トーナメントで決定した1位、2位、3位を対象とする。
- ② 対象チームの介助者も表彰式の対象とする。

8 付則

- ① 本競技規則は令和6年度大会から適用する